

シリーズ・児童詩が光る教室風景

子ども・詩の国探検

AKEMI SHIRATANI

白谷明美



著者紹介

白谷 明美（しらたに あけみ）

1940年生まれ

1960年 福岡学芸大学修了

1966年 玉川大学文学部教育学科卒業

現 在 福岡県柳川市立昭代第二小学校

著 書 「詩の指導～鑑賞と創作～」(共著・光村図書出版株式会社)

「新しい詩の創作指導」(共著・明治図書)

「説明文の読み・書き連動指導」(共著・明治図書)

「音声言語による表現活動の研究と実践」(共著・明治図書)

住 所 福岡県柳川市常盤町二番地

NDC375 白谷明美（しらたに あけみ）

東京 教育出版センター 1996

240頁 21cm 子ども・詩の国探検

シリーズ・児童詩が光る教室風景

子ども・詩の国探検

1996年3月6日 初版発行

定価 1,500円

(本体 1,456円)

著者——白谷明美◎

編集——銀の鈴社 電話 03-5394-0661

発行——教育出版センター・代表 柴崎 聰

〒170 東京都豊島区北大塚3-29-2 アカデミアビル

電話 03-3239-5438

FAX 03-5394-0633

ISBN4-7632-2539-1 C0037 P1500E

印刷・電算印刷

落丁・乱丁本はお取り替え致します。

序 文

大阪教育大学名誉教授・教育学博士

弥 吉 菅 一

筑後川が有明海に注ぐところ、白秋のふるさと柳川で、子どもと詩を学んでこられた白谷明美先生が、このたび『子ども・詩の国探検』という名のご本を、「銀の鈴社」の企画編集で、「教育出版センター」より上梓なさいました。実践記録による詩の指導体系の新提唱、日本児童詩教育界の一大慶事、心から、およろこび申しあげます。

さて、戦後五十年の今日、児童詩教育界でも、明日への暁鐘が待たれること切です。思うに、今から三十五年も前・一九六〇年のことでした。在来 of 生活詩を否定した暁鐘が乱打されたのは。その理念たるや本質的であり魅力的でもあったのですが、なにしろ実践的方途の不十分さのため、ついに現場に定着し得ず、忘れ去られてしまったのです。それ故に、こんどは、わけても実践方途のそれが求められていたわけがあります。

とかく、詩の指導は至難のわざだとされてきました。であるのに、白谷先生は「詩の国

探検」といった発想で、楽しく詩の国に出かけられ、次から次へと新しい質の高いイメージを発見されているのです。たくさん子どもたちと一緒に。ついに、第四段階の「見える見える国の探検」では、心の深奥をイメージ化し表現できる能力を体得させてしまっておられます。なんと心にくいことでしょう。そういう道程が、本書の第一部「詩が生まれるまで」では、先生独自の実践記録で展開され、第二部「人間力を培う児童詩教育」では、指導体系として構造化され、主体から客体への世界までのぞかせています。このような意味での児童詩教育実践家は、管見のいたすところ、白谷先生をおいて他にいらつしやらないと愚考いたします。よって私は、本書の出版を日本児童詩界の一大慶事と申したのであります。白秋のふるさと柳川からのこの白谷先生の曉鐘を、どうかお聞きとり下さいませようお願いします。

(一九九六・一・七)

はじめに

「さあ、今日は、碁石拾いをしましょう。」たくさんの碁石が、青いプールの底に落とされました。子ども達の目は、水の底の碁石に吸い寄せられていきます。

「よい、どん。」

「わあっ——。」

子どもたちは、歓声をあげて水の底にもぐり碁石を拾い始めました。そして、

「ぼく、三つ拾ったよ。」

「わたし、五つよ。」

と、拾った碁石を見せ合い、又、水の底に落とします。

「今度は、六つ拾ってくるよ。」

「では、わたしは七つよ。」

子どもたちは、どんどん数を増していきます。そして、いつのまにか長くもぐることができようになっていくのです。

「これだ。」

私も、思わず歓声をあげました。

碁石拾いのような詩遊びをすればいいんだ。それからです。私が、いろいろな詩遊びを工夫しだしたのは……。

「詩遊びって面白いね。もっとやろうよ。」

子ども達の催促の声に乗って、遊びの糸車を回すうちに、たくさんの子どもの作品を紡ぎ出していました。

とはいえ、質的には拙い実践や作品を高く評価していただき本書出版のために、ご支援とご助言を賜りました大阪教育大学名誉教授の弥吉菅一先生に、深く感謝申し上げます。

また、この実践をまとめるきっかけとまとめ方についてご指導をいただきました長崎大学教授の安河内義己先生に、心からお礼申し上げます。

そして、銀の鈴社の社長、柴崎俊子氏には、多量の実践をすっきりと編集していただきますと共に、細部にわたって、ご配慮下さいまして、本当に有難うございました。

平成八年一月 （水郷 柳川にて）

著 者

序 文

彌吉菅一

i

はじめに

iii

第一部 詩の生まれるまで

一 ことばの国の探検 3

1 ことば遊び 4

(1) ゆかいなことば 4

① おならのうたから〇〇のうたへ 4

⑦ おならのうた 4

① 「〇〇のうた」をつくろう 5

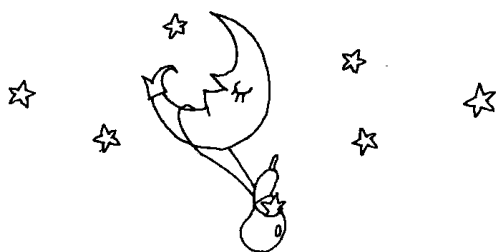
② ことばあつめ 6

③ ことばうた 7

(2) 自己アピール 8

(3) お誕生月のしりとり詩 9

(4) ×(だめ) しりとり詩 10



(5) 似ている言葉詩 12

(6) 落語詩 13

(7) さかきことば詩 14

2 カンジーはかせ 18

(1) みたいみたいはかせ 18

(2) なぜなぜはかせ 20

① ソックリ漢字のババぬき 20

② ちよつとちがうのはなぜなぜ 21

③ 同音異義のなぜなぜ詩 21

④ 筆順なぜなぜ詩 22

(3) 合体漢字の面白辞典 24

① 面白クイズ 24

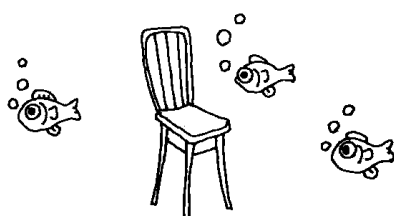
② 面白辞典 25

③ 合体漢字詩 25

④ 漢字物語詩 27

(4) 名前詩 28

① 変った自己紹介	28
② かけあい自己紹介	29
③ 自分の名前の意味	29
④ ぼくの、わたしの名前詩	30
(5) 同訓異義の漢字詩	31
① 川崎洋さんの「かく」	31
② 同訓異義の漢字集合	32
③ 同訓異義の漢字詩	33
(6) 漢字秘話詩	34
3 ことばとことばのドッキング	37
(1) ドキッとすることば	37
(2) とつぴな題の詩	37
(3) ゆかいな主語・述語・修飾語	40
(4) 変身ゲーム詩	42



二 イメージの国の探検 47

1 イメージ遊び 48

(1) まねっこ詩の行列 48

① ポエム・タイム 48

② まねっこ詩 48

(2) 連想詩 51

(3) 仮定詩 53

① 「もしも……なったら」と仮定した詩 53

(4) つづき詩 55

① 絵本つづき話 55

② コアラの赤ちゃん 55

③ 「あめが ふるとき ちようちようはどこへ」 57

④ つづき詩 58

⑤ タやけのむこうは？ 58

⑥ 〇〇のむこうには？ 63

(5) 文型詩 65

①「せいのみ」の文型詩 65

②「あきのそら」の文型詩 66

③誰も見ていない時 68

④とうとうさいごは…… 70

⑤こんな日は……したい。 71

(6)変身詩 72

①なわ一本(低学年) 73

②青い空をじっと見ていると(中学年)

75

③木(高学年) 77

2 イメージ・チェンジ遊び 81

(1)名前がえ詩 81

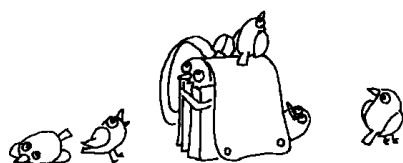
①ぼうしの名前は? 81

②名づけ遊び詩 84

③名前がえ詩 84

④動物たちの名づけ詩 86

(2)マンガ詩 87



① まどをあけたあとで 87

② マンガ詩 88

③ 主語のおひっこしマンガ 90

④ マンガ詩大会 91

⑤ 画のない四連詩 93

(3) 比較詩 95

① むかし かめは? 95

② むかし、雪は何だったの? 98

③ 昔と今 99

④ 百年前のぼく・わたし 100

⑤ 昔を「ゆめ」みる詩 101

⑦ イスの作者の話 101

三 発想転換の国の探検 105

1 いいえ発想 106

(1) じゃなくて詩 106

① じゃなくて 106

② じつをいうと…………… 108

③ ほんとうは…………… 109

(2) いいえ詩 112

① ○○○？ いいえ、××× 112

② 「いいえ」のある風景 114

③ だれの目に？ 115

(ア) 春が来た 115

(イ) 雨は、だれの目にどんなに見えるのでしょうか。 116

(ウ) 海はだれの目にどんなに見えるのでしょうか。 116

(エ) ○○は、だれの目にどんなに見えるのでしょうか。 117

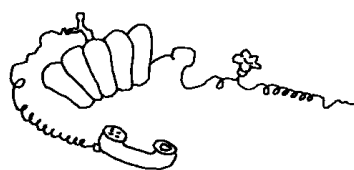
(オ) 見るものも変えてみましょう。 117

(カ) だれの目を入れないでもわかるように書いてみましょう。

2 ズバリ発想 120

(1) 詩クイズ 120

① やさい いろいろ 120



②くだもの三つ

③動物いろいろ

122 121

④魚いろいろ

123

(2)詩クイズいろいろ

123

(3)誰の声？

126

(4)私は誰でしょう

127

3 誰も知らない本当の話

129

(1)君知ってた？

129

(2)りんじニュース

130

(3)情景のドッキング

131

①異なつた情景のドッキング

131

②似ている情景のドッキング

134

四 見える見える国の探検

137

1 見える見える

138

(1) 手にぼうえんきょうをつけたら

138

(2) ガラスにかいたかお

139

(3) 雲は○○に見える

141

(4) 見える見える対話詩

142

(5) 見えるものをくさりのようにさがしていこう

144

(6) 聞こえることをくさりのようにさがしていこう

146

2 なぞなぞあそび詩

148

(1) なぞなぞあそびうた①

148

(2) なぞなぞあそびうた②

149

(3) なぞなぞあそびうた③

151

3 みたいみたい詩

154

(1) さくらんぼは、○○○みたい

154

(2) みかんは、○○○みたい

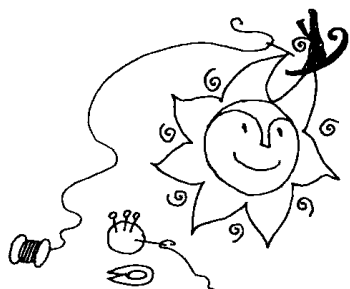
156

(3) ○○の音は○○○みたい

158

(4) そっくり様子さがし

162



(5) みいつけた詩

163

4 ○○のようだ詩

167

(1) ようだクイズ

167

(2) 石は○○しているようだ

167

(3) 自然からの手紙

168

(4) 自分の体からの手紙

169

(5) 母の日のプレゼント

170

(6) たとえのつえをふれば

172

5 ○○だ詩

175

第二部 人間力を培う児童詩教育

一 子どもは詩人

180

